

前山 和喜（まえやま かずき）

●研究テーマ

科学技術計算と大型計算機の利用 —HITAC5020 を中心として—

●研究分野

日本コンピューティング史

■研究のキーワード

●キーワード1 日本における大型計算機の受容と利用

どのような期待や需要があり大型計算機が開発・導入されたのか、またそれにより社会がどのように変わっていったのかを、開発者や計算機の科学技術的な側面だけでなく、利用者や社会の立場からも研究する。

●キーワード2 日本における計算のあり方の変遷

そろばんや計算尺、手回し計算機などの計算道具から、コンピュータ（電子計算機）や電卓など動力を用いた計算機器へと変わっていく時代における計算行為の連続性と非連続性を考えていく。

■研究業績等

●論文

- [1] 前山和喜, 高木悟「ネイピアの計算盤とその活用・展開」早稲田大学数学教育学会誌, 32(1), pp. 16-31, 2014年
- [2] 前山和喜, 牧野潔夫, 落合竜也「約数ニムのグランディ数」早稲田大学数学教育学会誌, 34(1), pp. 53-59, 2016年

●口頭発表

- [1] 前山和喜「計算科学の黎明期：KDC-I における計算機の利用の意味の変化について」日本科学史学会第65回年会, 2018年
- [2] 前山和喜「日本におけるコンピューティング史の資料保存のための試論」第81回情報処理学会全国大会, 2019年